

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 3月13日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000515		
法人名	NPO法人 生きがいセンター		
事業所名	グループホーム 生きがい		
所在地	小樽市朝里川温泉2丁目694-3 (電話) 0134-54-1112		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年3月11日	評価確定日	平成22年4月5日

【情報提供票より】 (平成22年 2月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 9月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 8人, 非常勤 11人, 常勤換算11.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~33,000円		その他の経費(月額)	光熱費他 15,000円 暖房費(10~5月) 8,000円
	無		有りの場合 償却の有無	有 / 無
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有 / 無
	朝食	円	昼食	円
食材料費	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要 (2月24日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	6名	要介護2	8名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.5歳	最低	75歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東小樽病院、中垣病院、朝里整形外科内科病院、朝里病院他
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、温泉地区にあって四季色々な顔で彩る遊歩道や東屋が立つ敷地内にあり、隣接のグループホームと共に理想のサブカルチャーを構成していますが、近隣に住宅が少ないなどのハンディも有しています。しかし、ホーム前がバス停となっており、家族の訪問には利便性に恵まれています。利用者の持つ能力を引き出す努力が、管理者や職員の全てが共有して実践されています。「できること、できそうなことは手を出さずにとりあえず行なってもらう」をモットーとしています。ホームは外部研修への盛んな出席と共に内部研修の充実があります。年間計画で予め課題を決めて、毎月開かれる勉強会で職員が講師となり研究成果を発表していますが、個々のスキルアップに多大な影響を与えておりホーム全体のクオリティを高めています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で4つの課題に取り組むこととして、職員が前向きに検討しています。地域密着型サービスの根幹に触れながら、理念を考える作業が生まれたことも評価できます。残る課題への取り組みは継続して行なうこととし、運営推進会議に提案しながら推進を図ろうとしています。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、ユニット毎で職員全員が参加しながら作り上げていきます。ユニット毎の特徴も随所に見られるなど細やかな日頃のサービスの振り返りが見られます。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヵ月毎の開催が守られています。会議ではホームの状況、利用者の健康維持に関する報告、また、行事報告と今後の予定などが議題とされています。しかし家族及び地域の方々、更には市職員や地域包括支援センター職員が欠けるなど、メンバーの少なさ、偏りが本来の会議目的を發揮できない要因となっています。今後は地域住民の方々や家族に出席を働きかけると共に魅力ある会議内容、また、評価で得られた課題を目標達成計画書に基づいてメンバーに報告するなど、協働しながらホーム運営に反映する取り組みを期待します。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問頻度が高く、利用者、家族そして職員が身近に感じられます。管理者及び職員は家族が何でも話し合う雰囲気づくりを大切との認識が強く、日々努力しています。家族からの意見、要望、また苦情があった際には、時間をおかずフロア会議などで方向を協議しながら運営に反映するようにしています。意見箱の効果や会報の改善も今後の検討課題として取り組むこととしています。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム周辺は、住宅が少なく住民との交流の面では多少のハンディがありますが、地域の他のグループホームとの連携により利用者の交流、また、近隣の小学校行事への参加による児童と父兄との交流など、懸命な努力が窺えます。昨年来の新型インフルエンザの流行により事業的には縮小されていますが、地域の「夏祭り」やホーム行事への招待など、これからも多岐にわたる地域との交流が期待されます。
	⑥	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年からの取り組み課題の一つでありました地域密着型サービスとしての理念は、職員間で検討を重ね新たな理念が生まれています。新しい理念と共にケアに関わる5つのポリシーがホームのサービスの根幹となっています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しい理念とポリシーは、玄関ホール、フロア、厨房などに掲示され、日々の行動に活かせるよう努めています。管理者は家族等への啓発に資するため、パンフレットや会報などを利用することが計画されています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	温泉地区の立地条件により住宅街と隔たりがありますが、小学校の運動会や学習発表会の招待を通して児童や父兄と交流が図られています。また、民生委員や小学生、職員による「雪明りの路」をホーム中庭に作り、利用者ばかりでなく通行者も関心を寄せたほか、温泉街の夏祭りイベントに招待されるなど、地域とかけ込みながら交流の幅を広げています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の項目を職員間で分担しながら、日頃のサービスを振り返る良い機会と捉えて作られています。前回の評価における課題に対しても、フロア会議で話し合うなど取り組みの姿勢を見ることが出来ます。		

小樽市 グループホーム 生きがい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎の開催が守られています。会議ではホームの現況や行事など報告され、質疑応答が行なわれていますが、出席者が少なく、とりわけ地域の方々、家族、地域包括支援センター職員などの出席が少なく、本来の会議の目的が十分に発揮されていません。	○	地域の理解を得ながら、また、家族へはこの会議を通してホームの運営に参加する意義を説明しながら、多くの出席による内容豊富な会議への取り組みが期待されます。また、自己評価並びに外部評価を公開して課題取り組みへのモニター役を担っていただくことを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護に関連する事務手続きや介護保険での指導を得るなど、市担当者とは連携を蜜にしています。これからは評価での取り組みなど進捗状況を報告しながら、指導を仰ぐなど協働体制に努めることとしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヵ月に1度、金銭収支報告書の下段を利用して、利用者一人ひとりの健康状態や近況を送付しています。家族の訪問頻度が高いため、面会時には写真などを見ていただく、また、電話により日々の様子を伝えるなど心配りがありますが、ホーム便りの発行が年2～3回と少ない状況にあります。	○	2ヵ月に1度の個人別近況報告については、担当職員が記述することで、より詳しい内容の報告が期待されます。また、ホーム便りは、発行回数を増やすと共に記載内容を豊富にするなど、家族との絆がより強固なものとなるよう取り組みを期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、家族が気軽に話しやすい雰囲気づくりや対応を大切に、意見や要望などの聴取に努めています。また、意見箱や外部の相談窓口も紹介しています。家族から意見や要望、苦情があった場合にはフロアー会議で検討し、早急に問題の解決を図りながら、ホーム運営に反映するよう体制が作られています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在のところ永く勤務されている職員が多く、利用者との馴染みの関係が継続されています。異動や退職があった場合は、丁寧に説明し、職員間の引継ぎを適正に行なうなど、利用者との関わりを多く持ちながら、異動などによるダメージを防止する配慮をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員のスキルアップによるサービスの質の向上に大きな期待を寄せています。年間計画に基づいたテーマを各職員が担当し講師を務めるなど、内部研修の効果を高めています。また、グループホーム協議会関係の研修や外部研修にも率先して参加し、全職員にも共有できるよう努めているほか、他のホームへの視察研修も取り入れてサービスの向上が図られています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者及び管理者は、同業者とのネットワークを構築しながら、情報の交換に止まらず、職員を派遣して他のホームへの視察研修を行なうなど、サービスの質の向上に向けた取り組みが行なわれています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の希望に際しては、家族と利用者に訪問をしていただき、ホームの雰囲気や他の利用者の様子など、納得し安心してサービスを利用できるよう配慮しています。また、入居当初は徐々に馴染めるよう、家族の意見やモニタリングの情報を参考にしながら、職員の気配りが継続して行なわれています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者、職員が共に暮らす中で、利用者から料理、手芸、昔からのことわざなどを教えてもらうことで、職員はもとより利用者の暮らしに張りができています。利用者にとっては昔の技を教える自信に繋がるなど、暮らしの幅が大きく広がりを見せています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在は、利用者との会話による思いや意向を伺うことが可能な利用者が多い状況ですが、言葉で表現できない場合は、本人の生活歴を参考に、その時々表情や行動から思いや意向、希望を把握するように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用当初の計画の作成に当たっては、家族や利用者の意見、要望など情報収集し、職員間で協議、管理者と計画作成担当者が中心となり、利用者の暮らしが最適になるよう作成されています。日常の介護記録の内容が計画に連動されており、具体的なサービスの成果も把握できるシステムとなっています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	度々行なわれるアセスメントとモニタリングが十分な効果をもたらし、計画の見直しに反映されています。3ヵ月を期間として見直されますが、状況によっては随時、見直しも行なわれています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院などは家族の対応が多いようですが、家族の対応ができない状況にあっては病院への送迎や美容院への同行、買物など柔軟な対応により支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医への受診については、家族の対応のほかホームでも支援をしています。ホームの協力医は定期的な受診や検査を行なうなど連携を図りながら、適切な医療が受けられるよう支援が継続されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで、一部の利用者、家族に対し重度化や終末期に向けた話し合いが持たれていますが、ホームとしての方針が明確になっていません。また、職員に対しても重度化や終末期に向けた対応などの説明や共有を図る段階に至っていません。	○	早期にホームとしての方針を作成して、家族への説明、また職員間で十分な共有、意思疎通が計られるよう取り組みを期待します。
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格や誇りを損なわない気配りの支援が継続されています。利用者が理解できるよう、ゆっくり、はっきりの言葉かけをモットーにしています。また、記録などは他の目に触れない対応をするなど、プライバシーへの配慮に努めています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状況を把握しながら、日々その人らしい暮らしが継続されるよう支援しています。ホームの事情や職員の都合ではなく、利用者本位のペースを守ることに徹して、サービスの提供に心がけています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員が一緒になって和気あいあいの中で進められています。二つのユニットでは若干賑やかさに相違がありますが、それでも利用者と職員の笑い声が食卓に溢れています。配膳や下膳、食器洗いなど進んで行なわれています。利用者は椅子に掛けての食事が習慣となっており自立への気配りも覗うことができます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の曜日や時間はある程度決まっていますが、入浴の好きな利用者は毎日入浴を楽しんでいます。殆んどの利用者は見守りのみで自分のペースを守りながら楽しまれています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの体調や希望に合わせて、ホーム内の役割りや趣味に沿った楽しみごとに精を出していただいています。ちぎり絵など、手芸の素晴らしい作品が目を見守ります。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩は、職員と共に行なわれます、敷地内の遊歩道や東屋、菜園の見守りなど、閉じこもりを防止する支援が継続して行なわれています。遠出の外出は家族が対応して絆を深めています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は、玄関、ユニット間の施錠はせず、自由な行き来が行なわれています。階段は2階からの転落防止のため、木製柵が設けていますが、職員と共に歩行訓練などに開放されています。夜間の午後8時より翌朝6時頃まで施錠することとしています。		

小樽市 グループホーム 生きがい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力をいただいて救急救命と夜間想定を含む年2回の避難訓練が行なわれるほか、自主訓練を絶やさず行なわれています。敷地内にある他のグループホームとの連携も行なわれていますが、地域住民の方々への協力要請が進んでいません。	○	臨場にあつて、特に人手の少ない夜間では利用者の対応に追われることは明らかであり、近隣住民の方々への協力は欠かすことができません。ただ単に協力要請ではなく、避難に際してどの場面をお願いするかなど、具体的なマニュアルに沿った要請が必要と思われ、これら対応の取り組みに大きく期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取など食事の内容は、法人の栄養士が献立作りをし、職員が調理をして提供されています。利用者の状況により、嚥下を防止する食事の加工や嚥下体操の導入により、自力で食事が楽しめる支援が行なわれています。また、水分の摂取は毎日の記録によって適正に支援されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく落ち着いた壁面に誘導される広い廊下と居間、食堂も明るく落ち着いた雰囲気とする安らぎの空間となっています。壁面の色彩、照明器具の工夫などに加えて、利用者のちぎり絵や手芸品、写真などが沢山飾られており、訪問者の目を奪います。また、職員の疲れを癒すスタッフルームや家族等の相談に利用されるゲストルームが設けられているなど、細やかな気配りが随所に見ることができます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口は引き戸ですが、廊下の壁面にフィットした色彩が明るい雰囲気を醸し出しています。日当たりの良い居室の内部も清掃が行き届き、利用者の馴染みの家具や調度品は整然と並んで、安心できる暮らしの空間となっています。		

※ は、重点項目。